謹賀新年

旧年は、三井不動産リアルティ株式会社とソーシャルオフィス事業（清掃業務等）を開始し、ご利用者様３名を就職させることかてきました。また、「いたる地域ケアセンター」もスタートし、大変うれしく思います。

今年は、５月に「いたる第12ホーム」が開所され、また、イタール成城」が着工されます。

社会福祉法人いたるセンターかご利用者様にとって、力強い支援者となれますよう、本年も頑張ってまいります。

ご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

２０１６年　元旦

社会福祉法人いたるセンター
理事長　谷山哲浩

いたる通信

ITARU CENTER

51

新春号

目次 contents

01 理事長新年挨拶
あけぼの作業所

02 阿佐谷福祉工房
クローバー

03 すまいる高井戸
いたる相談室
いたる地域ケアセンター
GH事業部
サポートウイズ

04 Puku Puku
さんまるしぇ
目黒本町福祉工房

あけぼの作業所とグループホームの食の連携

あけぼの作業所
施設長　荻野（おぎの）　路子（みちこ）

「食を通じて利用者さんの健康状態を良くしたい！」を合言葉に、一昨年から、あけぼの作業所とグループホームで配食事業についての試行錯誤を重ねてきた結果、昨年４月から、本格的に週３回の配食事業をスタートしました。職員の「不安」をよそに、あらゆる食材の計量やカットを正確にこなすメンバーさん。回数を重ねる度に、そのスキルは上がっていき、今では、調理担当の職員が「芸術的」というほどの、「銀杏切り」や「小口切り」を見事にこなすメンバーさんの成長に、担当者も感涙（笑）。職員の計量ミスを発見し、「違っている」と差し戻すメンバーさんに「頼もしさ」すら覚える今日この頃です。

さて、「食のトータルコーディネート戦略」の内容と成果をお伝えさせて頂きます。

「配食」というと「出来上がったお弁当」をイメージされる方が多いと思いますが、あけぼの作業所で行っているのは、①「管理栄養士が成人に一日必要とされる適正な栄養素を含むレシピを作成する」②「レシピに従って、メンバーさんが、野菜のカットや調味料の計量を行う」③「11ホーム分の保冷発泡スチロール箱に、各ホームの人数分のカット野菜や主菜（肉・魚）を詰めていく」以上の３工程です。調理自体はグループホームで行ってもらっています。

この半年をデータで振り返ると、肥満傾向だった利用者の体脂肪率は軒並み２～３％減少。年齢相応の薬は仕方ないとしても、薬が増えていない。また、全く薬を飲まずに健康を保っている方がいらっしゃいます。夕食の団欒は、お米が炊ける香り、味噌汁の湯気、炒めものを調理する音など、「食べる前」から始まっています。これからも、「カット野菜」と「レシピ」の提供で、利用者さんの健康に寄与でき、それが、メンバーさんの工賃アップとスキルアップに繋がることを願っております。

グループホームでの食事の様子

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費　１口５千円（何口でも可）

郵便振り込み　００１１０　７１２８９２

（問）３３９２-７３４６　事務局　山本まで

パン工房Puku Puku

阿佐谷福祉工房で食パン製造開始

工房長　池田（いけだ）　史暢（あやのぶ）

パン工房プクプクでは12月より阿佐谷福祉工房の厨房にて食パンの製造を開始致しました。日産50本（１００斤）体制を目指して職人さんが奮闘しています。これに合わせて休眠状態だったＪＲ阿佐ヶ谷駅そばの「にぎやかな風」の店頭にて食パンの販売を12月16日よりスタートし、阿佐谷近辺のお客様にも味わって頂けるようになりました。今後は店頭販売と合わせて食パンの配達も手掛けたいと考えております。

一方でプクプクの本体の窯では食パンを焼く時間帯がフリーになった分で新商品を開発し、商品のバリエーションが更に広まる事になりました。１月は「ベーコンエピ」、「グラタンパン」、「チョコレートレーズンバー」等新作が目白押しです。又、ハード系の「イチジクとクルミのカンパーニュ」、「クランベリークリームチーズ」等品揃えが充実し、買上のお客様が増加しています。

おいしい食パンを提供します。

SunMarche（さんまるしぇ）

トレンドに合わせた品揃え

店長　鈴木（すずき）　健（たけし）

さんまるしぇでは目黒区内の各施設と共同企画でフェアを定期的に開催しています。スタッフが各施設の担当窓口になりフェアの打ち合わせをしていますが、その中で最も気を配っているのが、「お客様の購買意欲をどう喚起させるのか」です。

その為には時流にあった品揃えをどう行うかで、具体的には各施設にファッションのシーズントレンドもお伝えします。シーズントレンドにあった色、柄をどう商品に反映してもらえるかで売上が変わってきます。従って普段も年中行事にあわせた店舗品揃えとシーズンディスプレイを常に意識しております、店の鮮度を高めています。

ディスプレイに工夫しています。

目黒本町福祉工房

第13回全国障害者スポーツ大会へ参加

生活介護事業部　春木（はるき）　琢康（たくやす）

平成25年10月12日・13日の両日「第13回全国障害者スポーツ大会」が駒沢オリンピック公園総合運動場で開催されました。

この大会の「フライングディスク」部門に目黒本町福祉工房生活介護事業部「つばさグループ」の小松聖一さんが出場されました。

小松さんは厳しい練習を頑張り、また工房でも「コルク作業」のリーダー的な存在としてチームをひっぱりながらこの大きな大会に出場できた事を誇りに思うと語っていらっしゃいました。

また、目黒でのグループホームでの自立生活をおこなうえでの些細なことも様々な場面で役に立ったと語っていらっしゃいました。

当日は職員、メンバーで応援に行きとても思い出深い秋の日になりました。

応援団で楽しみました！

花束をもらってにっこり!!

いたる広報委員

発行責任者＝谷山　哲浩

社会福祉法人いたるセンター
〒167－0032
東京都杉並区天沼１－１５－１８
ＴＥＬ：03-3392-7346
ＦＡＸ：03-3391-8039
Ｅメール：info@itarucenter.com
ＨＰ：http://www.itarucenter.com/
発行日／平成２６年１月１日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のＦＡＸ、Ｅメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

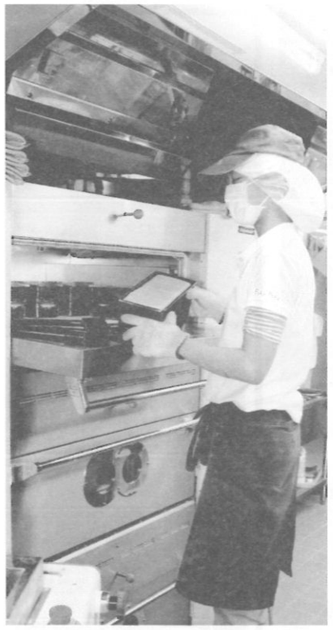
阿佐谷福祉工房
仕事をするなら阿佐谷福祉工房へ

施設長　佐藤（さとう）　章（あきら）

ご利用者様の「自己実現」「所得保障」のために様々な職域開拓し、様々な仕事を提供しています。

12月よりパン工房Ｐｕｋｕの国産小麦、天然酵母を使用した食パンのライン生産を開始しました。阿佐谷福祉工房のＢ型のご利用者様が仕事習熟度を上げることによりＡ型や一般就労へのステップをより実現しやすくなりました。この食パンは、阿佐谷駅そばにある「にぎやかな風」でも店舗販売を行っています。当施設自慢のラスク、クッキーもご賞味ください。

また、これを機にして缶パンの製造に向けた研究・開発を行っています。


毎日おいしい食パンを焼いてます。

印刷事業では、Ｔシャツ、ポロシャツ、クリアファイルなどへのシルクスクリーン印刷を中心に、名刺、はがき印刷などのデジタル印刷なども行っています。

そしていまもっとも事業が伸びているのが、清掃事業部「カガヤック」です。

公園の清掃に始まり、ワンルームの室内清掃などでの丁寧で誠実な仕事ぶりがかわれて、三井不動産リアルティ株式会社に昨年12月より3名のご利用者様が就職して働くようになりました。

仕事の内容は、民間駐輪場やコインパーキングの整理・清掃を行います。

障害者支援経験が豊富なスタッフと一緒に、数名の障害者の方がチームを組んで車で移動しながら1日に数か所回るシステムを組んでいます。

そして阿佐谷福祉工房では、企業で働く障害者の方への全面的なサポートを行い、障害者が働きやすい環境を整えてご利用者様の定着支援を行なってまいります。

民間駐輪場の清掃の様子

阿佐谷福祉工房で仕事をするのと同じような雰囲気で仕事を行って「所得保障」を実現していただきます。

今後も阿佐谷福祉工房では、就職準備訓練を行い、経験を積んだ方を企業に送り出していきます。就職を目指しているご利用者様は、ぜひ一度ご相談ください。「就職を目指すなら阿佐谷福へ！」

クローバー事業部
緊急利用に備えて

所長　影山（かげやま）　仁美（ひとみ）

今年度、クローバーには緊急による利用希望のお声が多く寄せられました。

平成25年4月から11月までご利用いただいた緊急の件数は、22件（144日）です。

※この件数はクローバーで把握できている（利用の理由を確認できた方）のみとなります。

クローバーでは約450名の方が契約されていますが、年間ご利用される方の人数は約150名です。こうした状況からも、ほとんどの方が緊急に備えて契約をされていると考えられます。

そこで今回は、クローバーが緊急要件にお応えできるように、昨年度から取り組んでいることをお伝えしたいと思います。

まず1つ目は、ご契約の皆様に安心してご利用いただくため、緊急にも備えた職員体制の充実を図っていることです。具体的には、直接介助が必要な方が緊急で希望された場合に同性介助ができるスタッフが不在でお断りすることがないよう、できる限り男女ペアでのスタッフ配置を心掛けています。

2つ目は、契約された方へ1度お使いいただく事をお勧めしていることです。

事前にご利用中の様子や必要な介助方法を事業所側が理解していること、そしてご利用者がクローバーはどのような場所で何をするところなのかを一度は経験しているということが、一番の重要な点と私たちは考えています。

まだ、お使いになったことがない方は、緊急時に備えて是非一度、利用のご検討をお勧めいたします。

今後も緊急にお応えできるよう取り組んで参りますので、お気軽にお電話ください。

施設利用お待ちしています。

すまいる高井戸（杉並区障害者地域相談支援センター高井戸）
会館まつり

センター長　春山（はるやま）　陽子（ようこ）

10月19日・20日と障害者福祉会館まつりがありました。すまいる高井戸もパネルや写真の展示をさせて頂きました。当日は沢山の方が来所され、手話ダンスや模擬店などもあり、お祭りを盛り上げていました。

すまいる高井戸には、休憩に立ち寄られたり「どんなところなの？」と見学に来られる方があったりと、にぎやかな雰囲気の2日間でした。

11月7日には障害者福祉会館全体で避難訓練があり、すまいる高井戸も職員・ご利用者様の方と参加をしてきました。雨天のため、予定していた消火訓練などは実施されませんでしたが、避難場所、避難経路の確認など日頃の備えや訓練の大切さなどについて改めて再確認することができました。すまいる高井戸は、地域の皆さんに役立つ情報をこれからも発信していきます。

いたる相談室
サービス等利用計画

室長　渡邊（わたなべ）　紀子（のりこ）

杉並区は障害者福祉サービスを利用する全ての障害児者について平成26年度末までにサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成する準備を進めています。

この計画は、区が行う支給決定の際に活用する他、支援者の共通目標になります。

いたる相談室では当事者の地域生活全体を支え、サービスをより効果的に活用できるような計画作成に努めています。状況に合わせて個別の支援会議も行います。福祉事務所の担当者を含め、各事業所（サービス提供者）が集まり当事者またはご家族を中心に、現在のサービス内容だけでなく、その方の将来も含めた生活支援について話し合いが行われています。

相談支援専門員は、各事業所を繋ぎ、事業所と当事者や家族を繋ぐ役割を担っています。

いたる地域ケアセンター
在宅における総合的な支援を目指して

センター長　八巻（やまき）　利子（としこ）

平成25年8月より、グループホームとサポートウイズ（居宅介護支援を含む）が統合し「いたる地域ケアセンター」としてスタートいたしました。

障害を持ちながら在宅で生活されている方達の外出や社会参加等の楽しみを目的とした「サポートウイズ」。親元から離れ、自立をめざしてグループホームで生活されている方達、その方達やご家族が高齢になられた時は、介護保険でのサービスが受けられるように「居宅介護支援」ではケアマネージャーが常勤で日々奮闘しています。

また、高齢になり施設での作業が難しくなった時を考え障害者対応の出来る「デイサービス（介護保険）」の立ち上げも進んでおります。

地域ケアセンターには看護師が常駐しており、グループホームで生活されている方達の健康管理や通院の付き添い、薬の管理等を行っています。

グループホーム部
世田谷区に進出

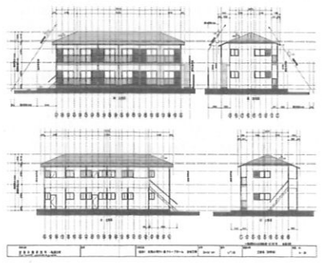
統括リーダー　白瀧（しらたき）　則男（のりお）

今年5月に第12ホームを開設いたします。所在地は世田谷区北烏山、いたるセンターとしては世田谷区で初めてのグループホームです。

今回の物件は一軒家を改修してグループホームにするという今までの形とは違い、アパートの1棟をまるごと借上げて改修する形をとっています。新ホームは2ユニット、10名定員になっています。

世田谷区ではこれまで世田谷区民で区の推薦がなければグループホームに入居できませんでした。今回のグループホームより定員の半数までは区民であれば法人の推薦者を受け入れられるようになり、定員の2割までであれば世田谷区民以外でも入居できることになりました。

北烏山のグループホームに入居希望の方がいらっしゃいましたら是非ご連絡ください。


第12いたるホーム側面図

サポートウイズ
居宅介護支援について

介護支援専門員　山﨑（やまさき）　智子（ともこ）

平成25年4月1日より、荻窪北マンションのサポートウイズ事務所内に、居宅介護支援事業を開始いたしました。介護保険の利用についてのご相談や申請のお手伝い、要介護認定後のケアプラン作成、行政、医療、介護、福祉用具事業者等の連絡調整などを行っております。法人内の利用者様だけでなく、地域で生活されているご高齢者の方々にもご利用いただきたいと思っております。お気軽にご相談して頂けたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【連絡先】03（3398）5620